

「主な取組」検証票

施策展開	5-(3)-イ	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進		
施策	②幼児児童生徒の基礎的な体力の向上及び健康・安全教育の推進			
(施策の小項目)	○健康教育の推進			
主な取組	歯科保健推進事業	実施計画 記載頁	379	
対応する 主な課題	○本県の児童生徒の体力・運動能力は緩やかに向上しているものの、相対的には全国平均を下回っていることや、子どもたちの欠食率が全国と比べて高い傾向にあるほか、高校生の交通事故件数が10年連続で300件を超えるなど、子どもたちの健康・安全面等において課題があることから、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培う、健康・安全教育、運動・スポーツ活動等の充実を図る必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	80歳で自分の歯を20本以上保つという「8020運動」に関する普及啓発を行い、県民の歯科保健意識の向上を図ることにより、「健康おきなわ21」歯の健康分野の目標達成を目指し、県民の生活の質を向上させることを目的とする。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
		保育所、幼稚園、小学校等へのフッ化物応用支援				→	県 市町村
担当部課	保健医療部 健康長寿課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成26年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
歯科保健推進事業	6,645	4,743	フッ化物応用の推進のため、保育所、幼稚園保護者向けにフッ化物洗口説明会を13回開催した。	各省 計上
活動指標名			計画値	実績値
保育所、幼稚園へのフッ化物応用支援			—	保育所176ヶ所(41.9%) 幼稚園17ヶ所(6.3%)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成26年度取組の効果			
順調	フッ化物洗口を実施する保育所数は昨年度より9カ所増加(167→176ヶ所)、幼稚園数は2カ所増加(15→17カ所)。フッ化物によるむし歯の予防が図られつつある。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成27年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
歯科保健推進事業	7,126	保育所、幼稚園関係者に対し、フッ化物洗口説明会等を開催し、フッ化物応用を推進する。	各省 計上

様式1(主な取組)

(3)これまでの改善案の反映状況

昨年度に引き続き、各保健所と地区歯科医師会が連携し、フッ化物洗口を実施していない保育所、幼稚園関係者を対象に研修や支援等を行った結果、保育所は167ヶ所から176ヶ所へ増加した。

(4)成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
12歳児の平均むし歯数	2.5本 (23年)	2.5本 (24年)	2.3本 (25年)	↗	1.05本 (25年)
80歳で20歯以上自分の歯を有する人の割合	12.9% (18年)	19.1% (23年)	—	↗	38.3% (23年)
状況説明	80歳で20歯以上、自分の歯を有する人の割合は増加したものの、全国平均と比較し低い状況である。また、県内の12歳児平均むし歯数は全国平均と比較し、多い状況であるが、年々減少傾向にある。 「歯と口の健康週間」のイベント等で、むし歯、歯周病、口腔ケア等、歯科保健に関する普及啓発を行っており、歯周病についての認識も高まりつつある。				

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・フッ化物洗口がむし歯予防に有効な手段として、保育所176ヶ所(41.9%)で実施しているが、幼稚園では17ヶ所(6.3%)と取組が十分ではない。幼稚園での導入にあたっては、学校関係者や保護者の理解が必要となるため、時間を要している状況である。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・むし歯予防には歯磨きの他、フッ化物洗口が有効な手段であることを学校関係者、保護者等へ理解を求めため、歯科医師会、市町村教育委員会、保健所と連携しフッ化物洗口の普及を図る必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・各保健所及び各地区歯科医師会との連携を深め、フッ化物洗口の未実施の保育所への説明会等を強化し、フッ化物洗口実施保育所の増加を図る。幼稚園については、フッ化物洗口実施導入について、教育委員会への情報提供や意見交換をしながら実施拡大が可能な方法について検討する。